

令和 6 年度 航空宇宙に関する活動等報告書



2022 年 9 月より進めていた北海道スペースポート（以下、HOSPO）内の滑走路延伸工事が完了しました。

滑走路の全長は 1,300m となり、従来の 1,000m から東に 50m、西に 250m の合計 300m 延伸しました。これによって従来よりも規模の大きい実験や機体の受け入れが可能となりました。

無人航空機やスペースプレーン（宇宙往還機）、空飛ぶクルマなどの次世代エアモビリティの研究・開発が活発化する中、HOSPO においても関連する実験の利用希望が寄せられており、こうしたニーズの多様化に応えることで、航空宇宙産業の発展に貢献しています。



目次

1. 航空宇宙に関する出来事.....	1
2. 北海道スペースポート（大樹町多目的航空公園）	3
3. 講演・イベント.....	7
4. PR 活動.....	9
5. 銀河連邦.....	10
6. 日本宇宙少年団（YAC）大樹分団.....	11

1. 航空宇宙に関する出来事

■宇宙なんちゃら こてつくん 宇宙応援アンバサダー就任

大樹町では、「宇宙のまちづくり」の取り組みを広く PR するため、TV アニメ「宇宙なんちゃら こてつくん」の主人公・こてつくんを大樹宇宙応援アンバサダーに就任しました。

「宇宙なんちゃら こてつくん」は、クリエイター・にしむらゆうじさんが原作の TV アニメで、子ども向け宇宙キャラ NO.1 アニメとして、子どもたちに向けて宇宙をより身近にする活動を展開しています。

今後は、町で行われる様々なイベントにこてつくんが登場し、こてつくんとともに、宇宙のまちづくりを盛り上げます。



■5大陸8宇宙港で覚書締結

10月13日、イタリア・ミラノで開催された国際宇宙会議 IAC2024 の会場にて、大樹町と SPACE COTAN 株式会社を含む5大陸8つの商業宇宙港で商業宇宙港に係る国際協力に関する覚書を締結しました。

覚書を締結したのは HOSPO のほか、アメリカ、オーストラリア、イギリス、スウェーデン、ペルーの商業宇宙港です。商業宇宙港による国際協力は世界初の試みとなります。

民間企業による宇宙産業の拡大が見込まれる中、ロケットや人工衛星の打上げ需要の更なる拡大に応じるため、世界の宇宙港の間で射場設備などの共通化を検討し、複数宇宙港での同じロケットの打上げや設備のコストダウンを図ることで、ロケット打上げの高頻度化、さらにはロケット事業者、人工衛星事業者の利便性の向上を目指します。

今後、宇宙産業の発展に貢献できるよう各国の宇宙港とともに取り組みを進めています。



■「たいき宇宙デー」

11月2日、町民宇宙イベント「たいき宇宙デー」を開催しました。

町が進めている「北海道スペースポート（HOSPO）」の整備状況や「宇宙のまちづくり」の理解促進を目的として、昨年に引き続き2回目の開催です。当日は約120名の方にご参加いただきました。

6月に延伸工事が完了した1,300mの滑走路を始め、ロケット射場「Launch Complex 0（LC0）」、「Launch Complex 1（LC1）」やインターステラテクノロジズ社が開発中の人工衛星搭載用ロケット「ZERO」の推進剤タンク試験用の構造試験等を見学しました。

人工衛星用ロケット射場（LC1）では、現在建設中の煙道を見学いただきました。煙道はロケット打上げ時の燃焼ガスが通るトンネルで、打上げ時の噴煙によるロケットの機体や衛星へのダメージを軽減するために重要な設備です。工事が完了する頃にはトンネルを埋め戻すため、内部の構造は今しか見ることができない貴重な機会です。また、LC1に隣接するインターステラテクノロジズ社がMOMOを打上げた射場「LC0」や工場など普段見ることができない施設を見学し、現在の宇宙の取組みについて理解していただく機会となりました。



■ 学習院大学と産官学連携協定を締結

11月20日、大樹町とSPACE COTAN、学習院大学の三者で、「宇宙分野における産官学連携協定」の締結式を実施しました。

学習院大学は、宇宙利用に関する研究・教育に取り組んでおり、長年宇宙のまちづくりを進めている大樹町に産官学連携拠点の構築を検討しています。

今後、学習院大学の宇宙利用分野に知見を活かし、国内で不足する宇宙関連人材の育成や地域社会の発展などに取り組みます。

【協定締結日】令和6年3月13日



■ 十勝管内の市町村職員がHOSPOを見学

11月26日、十勝総合振興局の主催で、十勝の市町村職員向けに「北海道スペースポート見学会」を開催しました。

振興局では、大樹町に限らず、十勝管内全体で宇宙関連産業の企業誘致に取り組んでいます。今回は北海道スペースポートの現在地やポテンシャルの理解を図り、十勝への誘致にあたり体制を強化することを目的に実施しました。当日は、6市町村の11名のほか、振興局の職員25名が参加し、現在建設中の人工衛星搭載用ロケット射場「Launch Complex 1」や1,300m滑走路を見学しました。

また、振興局が十勝での宇宙関連企業誘致を促す資料として、各市町村のオフィスや工場などの建設に適した用地のリストを公表しています。



2. 北海道スペースポート（大樹町多目的航空公園）

北海道スペースポートは令和5年4月より指定管理者としてSPACE COTAN 株式会社を選定し、同社による管理運営に移管しました。民間企業のノウハウを活かして、施設利用者の満足度向上を図ります。また、観光客や教育旅行、企業視察の受け入れを強化します。

（1）実験利用実績

令和6年度の大樹町多目的航空公園（JAXA 大樹実験場、IST ロケット射場（旧防衛省実験場）を含む）の利用実績を下表にまとめました。

今年度は、22 団体により 43 件の実験等が行われ、延べ 23,317 人が利用しました。

町では、実験や視察などによる宿泊や食事、レンタカー、航空運賃などの滞在に関わる費用を試算した結果、昨年度の約 12 億 4,700 万円から前年比約-3%の約 12 億 1,000 万円の経済効果があったものと推測しています。

年度	利用実績				推定経済効果
	利用団体数	利用件数	利用延べ人数	延利用日数※	
令和 6 年	22	43 件	23,317 人	492 日	約 12 億 1,000 万円
令和 5 年	20	42 件	23,167 人	597 日	約 12 億 4,700 万円
令和 4 年	19	45 件	20,283 人	664 日	約 5 億 7,900 万円
令和 3 年	16	30 件	12,635 人	315 日	約 3 億 5,900 万円
令和 2 年	9	16 件	7,855 人	188 日	約 2 億 9,400 万円
令和 1 年	9	26 件	6,829 人	330 日	約 3 億 5,700 万円

※延利用日数には、IST ロケット射場の利用日数は含まれておりません

（2）宇宙交流センターSORA 来場者数

宇宙交流センターSORA は、4 月 25 日から 10 月 31 日の間、毎日開館しました。

ガイドを常駐させ、来場者の満足度の向上を図ることができました。

今年度の来場者数は 7,460 人（うち、団体視察等 123 件 1,577 人）となりました。

年度	来場者数 ※視察人数含む	視察件数	視察人数
令和 6 年	7,460 人	123 件	1,577 人
令和 5 年	7,155 人	69 件	2,327 人
令和 4 年	3,734 人	40 件	950 人
令和 3 年	880 人	15 件	404 人
令和 2 年	1,102 人	10 件	358 人
令和 1 年	23,421 人	65 件	1,297 人

(3) 航空宇宙関連実験

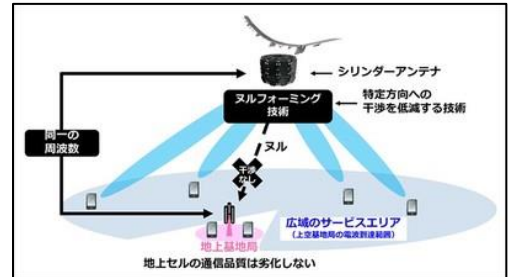
■ 上空基地局実証実験

実施団体：ソフトバンク株式会社

実験期間：4月1日から4月30日

実験内容：ソフトバンク株式会社は、成層圏プラットフォーム（以下、HAPS）と地上基地との周波数共用を実現するヌルフォーミング技術の実証実験に成功しました。HAPSと地上基地局が同一の周波数帯の電波を利用した通信サービスを提供することで、有限な資源である複数の周波数帯を使うことなく効率的な電波の利用を可能にします。

今後も通信サービスの展開を可能にする周波数共用に係る研究開発が進められます。



■ 小型飛行ロボット自律飛行制御実験

実施団体：電気通信大学情報理工学部 田中研究室

実験期間：4月18日から5月6日、9月3日から9月23日

実験内容：近年、災害発生時などの極限環境の中でも空からの活用が期待できる無人航空（Unmanned Aerial Vehicle）が注目されています。

同研究室では、スマートにミッションを遂行する自律飛行ロボット「スマート飛行体」の開発に関する研究を行っており、平成23年より大樹町で実験を行っています。

今年度も引き続き、低速・低高度でも安全に飛行可能な「パラグライダー型 UAV」、低コスト高パフォーマンスな「固定翼型 UAV」、ホバリング飛行が可能な「垂直離着陸無人機 VTOL」の3種類の機体を使用し、当研究室で設計した制御系の検証や自動飛行用ナビゲーションシステムの検証、上空からの情報収集システムの検証などを行いました。



■ Balloon kite の低高度係留実験

実施団体：北海道科学大学

実験期間：5月3日から4日

実験内容：北海道科学大学による Balloon kite の低高度係留実験が行われました。

今回の実験では、単独の魚型 Balloon kite を6つ繋げて係留することに成功し、繋がっている魚型 Balloon kite が風速により係留索の取り付け位置を自動調整する仕組みの必要性が明らかとなりました。



■ JAXA 大気球実験

実施団体：JAXA 大気球実験グループ

実施期間：5月20日から8月31日

実験内容：今年度の大気球実験では、「成層圏における微生物捕獲実験（Biopause V）」が行われ、無事実験は終了し、海上に着水した大気球は、大樹町の漁業者のみなさんの協力を得て回収されました。

また、小型気球実験では、「薄殻エアロシェル大気突入カプセルの自由飛行実験（RERA-4）」、「レーダー周波数比較による一般相対論の高精度検証に向けた基礎実験」、「火星飛行機用プロペラ推進器の高硬度試験（HIGHPER）」が行われ、全ての実験が無事に終了しました。

しかしながら、当初予定していた「皮膜に綱をかぶせたスーパープレッシャー気球の飛翔性能評価実験（B24-02）」と「改良型クライオサンプラー性能実証試験（B24-03）」は、実験機器の不具合や気象条件が気球気象に適合する機会が得られず、実験計画期間中に解消できる見込みがなくなったため、今年度の実施が見送りとなりました。



■ 上空パイロットと地上管制者との臨時通信実験

実施団体：トランサム株式会社

実施期間：6月11日から6月12日

実験内容：フライトサービスに向けた上空パイロットと地上管制者との臨時通信テストが実施されました。今回の実験では、デジタル簡易無線機およびライトガンの光により飛行中のパイロットと地上管制者間で通信の確保が確認できました。

今回の成果を生かし、今後は特定の周波数によるフライトサービスの確立を目指して、実験が続けられます。



■ インフレーター型バルーンカイトの係留安定性能試験

実施団体：北海道科学大学

実施期間：10月11日

実験内容：北海道科学大学によるインフレーター型バルーンカイトの係留安定性能試験を実施されました。

今回の実験では、インフレーター型バルーンカイトの係留に成功しました。

自動車による牽引実験は予定より低速度で実施し、係留安定性に問題があることを確認、今後、改良した機体を設計し、来年実験が行われる予定です。



■ 小型超音速飛行実験機関連実験

実施団体：室蘭工業大学

実施期間：11 月 11 日から 11 月 12 日

実験内容：室蘭工業大学航空宇宙機システム研究センターで研究・開発中の小型超音速飛行実験機「オオワシ」の空力特性把握のため、1/3 スケール縮小機体の車載走行試験が実施されました。

本試験では、小型超音速実験機「オオワシ」のロール各速度による空力変化を明らかにするため、1/3 スケール縮小機体にロール角速度を与えながら走行し、機体にはたらく空気力を計測しました。

今回の実験で得た情報を基に来年も車載走行試験が実施されます。



■ ハイブリッドロケット打上実験

実施機関：東海大学学生プロジェクト

実験期間：3 月 7 日～3 月 9 日

実験内容：東海大学の学生ロケットプロジェクトが、美成地区にてハイブリッドロケットの打上げ実験を行いました。

東海大学は、2004 年から大樹町で実験を行っており、今回で 30 機目のロケット打上げとなりました。

打上げは無事成功し、高度 408m まで達しその後、パラシュートを開傘させ射点から北東 524m の地点に落下、機体を回収しました。

今回の実験では打上げた機体を損傷なく回収するためのパラシュート 2 段階放出機構を実証し、パラシュート開傘時の機体への衝撃に関するデータを取得しました。

最終目標である高度 100 k m 以上の機体開発に向けた貴重なデータを得ることができました。



3. 講演会・イベント

■宇宙ビジネス展示会 SPEXA

4月24日から26日に東京ビッグサイトにて開催された宇宙ビジネス展示会「SPEXA-Space Business Expo」のカンファレンスに参加しました。

「自治体×宇宙」をテーマに、大樹町のほか、愛知県豊橋市、大分県、鳥取県の代表者が集結し、それぞれに即した宇宙ビジネスで地域がどう活性化するのか、宇宙ビジネスで実現する自治体の未来の姿や抱える課題について議論しました。



■企業版ふるさと納税寄附金 感謝状贈呈式開催

【第六回】

7月5日、大樹町宇宙交流センターSORAにて、大樹町に対して令和5年10月から令和6年4月までに企業版ふるさと納税の寄附をいただいた企業を対象として、感謝状の贈呈式を開催いたしました。

当日は感謝状の贈呈に加え、各企業様から北海道スペースポート整備に対する応援コメントをいただいたほか、全体写真撮影を実施しました。



また、1,000m から 1,300m へ延伸が完了した滑走路をお披露目しました。

参加企業は次のとおりです。（順不同）

＜エア・ウォーター北海道株式会社、東京建物株式会社、株式会社日本旅行、株式会社 A.ver、株式会社アルプス技研、株式会社旭商工社、UDトラックス道東株式会社、川田工業株式会社、株式会社カルテック、株式会社テレビ北海道、株式会社シバウラ防災製作所、株式会社エムエスケイ、株式会社オーサカステンレス、株式会社ズコーシャ、株式会社日本旅行北海道、三洋興熱株式会社、株式会社 NTT ドコモ、ホクレン農業協同組合連合会、SOC 株式会社、株式会社アモーチェ、株式会社アイマーク、ALSOK 北海道株式会社、株式会社有我工業所、株式会社柳月、エム・エス・ケー農業機械株式会社、株式会社本間解体工業、Maccam 株式会社、株式会社クロスドリーム、他一社＞

なお、当日の参加が叶わず、後日の贈呈となった企業は下記のとおりとなります。（順不同）

＜旭イノボックス株式会社、株式会社十勝毎日新聞社、スマートインプリメント株式会社、株式会社アミノアップ、三共電気工業株式会社、株式会社サンケミ、株式会社共成レンテム、株式会社カクテン屋、株式会社テクニカルサポート、株式会社 IHI エアロスペース、株式会社セコマ、株式会社トヨックス、B.CRISP 合同会社、グラビス・アーキテツ株式会社、三晃化学株式会社、茂田石油株式会社、株式会社ミエデン、マナデザイン株式会社、株式会社フコク、フェニル株式会社、日本生命保険相互会社、SPEDi 株式会社、ユウアイ電子工業株式会社、他七社＞

■大樹エアロスペーススクール 2024

全国にあるJAXAの事業所3カ所（大樹町、宮城県角田市、東京都調布市）ごとに、高校生がチームで協力し「宇宙航空ミッション」に取り組むプログラム「JAXA エアロスペーススクール 2024」が開催されました。

このうち大樹町では北海道スペースポート（HOSPO）を会場として、8月6日から9日の間、様々な活動を実施しました。

全国から参加した高校生20名は、宇宙交流センターSORAで開校式を行った後、町内の航空宇宙関連施設の見学、モデルロケットの打ち上げ実験、SPACE COTAN や十勝農業協同組合連合会の講義、エム・エス・ケー農業機械によるロボット農機乗車体験、ズコーシャによるドローン操縦体験等、大樹・十勝ならではのプログラムを学習しました。



■トヨタ自動車 おやし 河合 満 氏 特別講演会

8月5日、帯広市の北海道ホテルにて、トヨタ自動車の元副社長で、現在はエグゼティブフェローを務める「おやし」河合 満 氏を講師にお招きし、「モノづくりは人づくり～技能と技術は未来をつくる～」をテーマに講演会を開催しました。

宇宙産業を中心に十勝に製造業を集積させ、雇用創出と地域活性化を図るヒントを探ることを目的とし開催した講演会には、管内の企業関係者を中心に約200人が来場しました。

十勝において宇宙産業を発展させていく上で、トヨタ生産方式やジャスト・イン・タイムの考え方を示しながら、人が行う「手作業」と「基本教育」の大切さについて講演いただきました。



■北海道宇宙サミット 2024

10月10日、帯広市にて北海道宇宙サミット2024を開催しました。

4回目の開催となる今年は、北海道と共催し、「北海道が、切り拓く」をメインテーマ設定しました。

宇宙分野の開発者や専門家に加え、海外からの宇宙関係者など多種多様な23人を招へいし、将来の宇宙ビジネスの展望等様々な切り口でトークセッションを行いました。

会場では、宇宙産業に取り組む企業や大学、スタートアップ企業によるPRブース、夕刻の交流会において企業同士の数多くの交流・意見交換が行われました。

参加者は現地・オンラインを含む2,100名となり、非常に注目度の高いイベントとなりました。



■ ほっかいどう応援セミナー

11月18日、東京都で開催された「ほっかいどう応援セミナー」に参加しました。

ほっかいどう応援セミナーは、首都圏の企業へ、知事や市町村長が地域の魅力の発信や応援を求める場として北海道庁が開催しているものです。

黒川町長は、大樹町の宇宙のまちづくりについて説明し、現在建設中のロケット射場「Launch Complex 1 (LC1)」へ企業版ふるさと納税の寄附を呼びかけました。また、ブースでは町の特産品の大樹漁業組合のガーリックつぶを提供し、食や観光などの町の魅力もPRしました。

また、1月30日に札幌市でも同セミナーが開催され、同様に町のPRをしました。



4. PR 活動

大樹町や北海道の航空宇宙に関する取り組みをPRするため、道内外の航空宇宙関係の展示会やイベントに出展しました。北海道宇宙科学技術創成センター「HASTIC」やSPACE COTAN(株)、北海道等と共同で出展し、パネルやポスター、実験機材等の展示、映像放映、パンフレット等の資料配布を行いました。

■ 北洋銀行「ものづくりサステナフェア 2024」

展示会場：アクセスサッポロ（札幌市）

開催期間：7月24日

来場者数：約4,200人

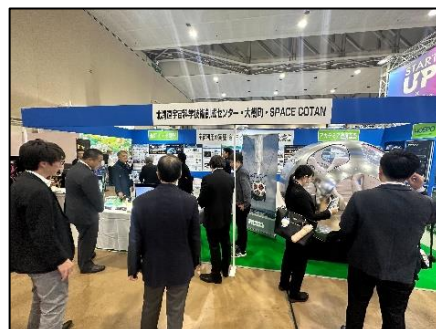


■ ビジネス EXPO

展示会場：アクセス札幌（札幌市）

開催期間：11月7日から8日

来場者数：21,261人



■ 国際産業宇宙展

展示会場：東京ビッグサイト（東京都）

開催期間：1月29日から31日

来場者数：26,268人



5. 銀河連邦

銀河連邦は、JAXAの研究施設が縁で交流を始めた5市2町がユーモアとパロディの精神で組織する連邦国家です。銀河連邦では、子どもたちの留学交流事業をはじめ、経済交流、銀河連邦フォーラムの開催などを通じて友好を深めているほか、災害時の相互応援協定を締結しています。

■ 第51回相模原市民桜まつり

4月6日、7日に神奈川県相模原市で開催された「第51回相模原市民桜まつり 銀河連邦物産展」に銀河連邦タイキ共和国として出展しました。

町内業者のまるみ工房と和牛道の2店舗が出展したほか、大樹漁業組合の鮭とばとアミポワールのチーズサブレを販売しました。ブース前に順番待ちの行列ができるほどの好評でした。

また、祭り当日は各銀河連邦共和国のお国自慢やパレードなどのイベントの他、飲食などの露店、企業や各団体のブースが設けられ、満開の桜に多くの人で賑わいました。



■ 第48回柏林公園まつり

9月22日、大樹町にて開催された柏林公園まつりで銀河連邦物産展を開催しました。

普段、大樹町内では購入することができないサガミハラ共和国、ノシロ共和国、サンリクオオフナト共和国、サク共和国、カクダ共和国、ウチノウラキモツキ共和国の6共和国の特産品を販売しました。



■ 銀河連邦フォーラム

10月4日、5日に秋田県能代市で開催された「銀河連邦フォーラム」に参加しました。

フォーラムでは、各共和国との情報交換のほか、内之浦宇宙空間観測所から打上げられているイプシロンロケットのエンジン燃焼試験の実験場や、エネルギーのまちとして先進的に取り組んでいる洋上風力発電などの発電施設を視察しました。

また、のしろ産業フェアへも参加し、じゃんけん大会や銀河連邦物産展で大樹町の特産品をPRしました。



■ 銀河連邦 PR 物産展 in 都庁

1月23日、24日に東京都庁で開催された「銀河連邦 PR 物産展」に出展しました。

都庁の全国観光 PR コーナーを会場に、銀河連邦 7 市町の観光 PR やパンフレットの配布のほか、各共和国の特産品を販売しました。タイキ共和国からはチーズと飲むヨーグルトを販売しました。

観光客や都庁の職員など多くの方に立ち寄っていただき、町の名産品を PR することができました。



6. 日本宇宙少年団（YAC）大樹分団

■ 総会、分団活動

5月18日に宇宙少年団（YAC）大樹分団総会を大樹町役場にて行いました。

総会では、新団員の紹介、前年度の事業報告と決算報告、今年度の予算案と活動計画について議論しました。また、分団活動として「宇宙飛行士の試験と訓練を体験してみよう」を実施しました。分団活動終了後には、分団員懇親会として、バーベキューを行いました。



■ 分団活動「スカイウイング製作・プラネタリウム見学」

6月23日に帯広市児童会館でスカイウイング製作とプラネタリウムの見学をしました。

スカイウイング製作では、帯広市児童会館の職員が講師となり、製作と打上げを行いました。

プラネタリウム見学では、帯広市の夜空から見える夏の大きな三角と南十字星について学びました。



■ ペットボトルロケット製作教室

7月22日に大樹町福祉センターでペットボトルロケット製作教室を開催しました。

町内外から28名の参加者が集まり、8月4日に行われるペットボトルロケットコンテストに向けて、ロケットを製作しました。

参加した子どもたちはお父さんお母さんと協力しながら、オリジナルのペットボトルロケットを完成させました。



■ 第24回ペットボトルロケットコンテスト in 大樹

8月4日に行われた「歴舟川清流まつり」のイベントとして「第24回ペットボトルコンテスト in 大樹」が開催されました。

今年は規定の部30名・自由の部9名の計39名が出場し、参加者はこの日のために作成した機体で飛距離を競い合い、子供から大人まで白熱した戦いを繰り広げました。

規定の部では、107.73mを記録した能戸 奏音さん、自由の部では、175.22mを記録した関 擧磨さんが優勝しました。

デザインコンテストでは、個性豊かな機体が出揃い、堀尾 宗平さんが最優秀賞に輝きました。



■ 研修旅行 in 札幌市

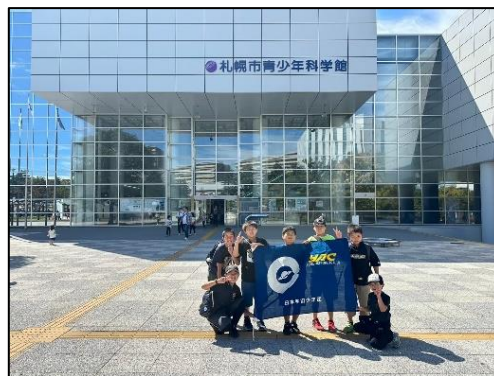
9月14日から15日、「日本宇宙少年団北海道ブロック交流会」に併せて研修旅行を行いました。団員7人、保護者2人、引率1人の計10人で札幌市へ向かいました。

大樹分団の他、札幌分団、苫小牧分団、釧路分団の団員が札幌市内にある青少年科学館へ集合し、開会式を行った後、科学館とプラネタリウムの見学を行いました。

その後、宿泊先の青少年山の家へ移動し、翌日の水ロケット大会に向けて、機体の製作を行いました。

水ロケット大会では、個人種目と団体種目を行い、個人種目では半谷 陽向さんが3位受賞、団体種目では各分団から代表者を2名選出、大樹分団からは浦野 新大さんと河口 峻太さんを選出し、見事2位受賞しました。

様々な体験を通して宇宙や科学について理解を深めることができました。



■スペースイラストコンテスト表彰式

9月22日、柏林公園まつりステージ上で「2024スペースイラストコンテスト」の表彰式を行いました。

今回は、127作品の応募の中から、入選された11名のうち、9名の方が出席され、日本宇宙少年団大樹分団長 齊藤 雅 氏から、表彰状・副賞・作品写真が贈呈されました。



■分団活動「水ロケット製作・打上げ」

12月8日、大樹高校の「大樹宇宙ボランティアサークル」が、日本宇宙少年団大樹分団の活動で「水ロケット製作」を指導しました。

大樹宇宙ボランティアサークルは、大樹高校の宇宙に関する地域活動を行うサークルで、6人が所属し、宇宙のまちの活性化に取り組んでいます。

生徒は、事前に水ロケットの作り方や仕組みを学び、宇宙少年団大樹分団員ら11名へ指導から打上げの支援まで担いました。



■分団活動「JAXA モデル日時計製作・プラネタリウム見学」

1月18日に帯広市児童会館でJAXAモデル日時計製作とプラネタリウムの見学をしました。

JAXAモデル日時計製作では、帯広市児童会館の職員が講師となり、製作と観察を行いました。

プラネタリウム見学では、帯広市の夜空から見える冬の大三角とオーロラについて学びました。



■分団活動「モデルロケット製作・打上げ」

3月9日、大樹高校の「大樹宇宙ボランティアサークル」が、日本宇宙少年団大樹分団の活動で「モデルロケット製作及び打上げ」を指導しました。

生徒は、事前にモデルロケットの作り方や仕組みを学び、宇宙少年団大樹分団員6名へ紙で作るモデルロケットの作り方から打上げの支援まで担いました。



発 行：大樹町役場企画商工課航空宇宙推進室
所在地：北海道広尾郡大樹町東本通 33 番地